

その28「住宅の耐震性実験」

耐震診断
判定「危険」

古い木造家屋
どう揺れる？

多くの自治体では、1・0の強さを具体的に示すデ
以上に引き上げる耐震化改
「1」はまだまだ少ない」と

「筋交い」に高い耐震効果

住宅耐震化の主な問い合わせ先

愛知県／県建築指導課	／052(961)2111	内2834
県建築住宅センター	／052(264)4032	
名古屋市／市耐震対策係	／052(972)2921	
三重県／県住宅室	／059(224)2720	
岐阜県／県建築指導課	／058(272)1111	内3785
長野県／県建築管理課	／026(235)7334	
福井県／県建築住宅課	／0776(20)0506	
滋賀県／県住宅課	／077(528)4231	

名大グループ 起震器で揺らし変化計測

実験中の社宅内。壁の一部が撤去されている

刻々と送られてくるデータをパソコンの画面で確認するスタッフら＝いずれも9月8日、静岡市清水二の丸町で

分析結果 改修工事資料に

実験の結果、普通の壁はもうろん、耐震設計の測定で力をつたえ、出入り口上への垂壁、たれかけ（べ）も耐震力の維持に役立っていることが明らかになった。特に、四隅に置かれた筋交い入りの壁は高い効果を發揮していた。ほとんどすべての壁を撤去した建物の耐震性は、7まで弱まった。

また、もう一棟の1号棟

実験が行われた市部電力江尻変電所の社宅4号棟。左のテントでコントロールとデータ収集をする。

谷口教授は、地震改修をしようと思っても、費用からあきらめてしまう例が少なからずあるとい。データを分析することで、改修内容に細かい目向け、個々のケースに応じた現実的な提案ができるはず」と、実験の意義を話した。

・三平方桁、土壁で比較的細かく切られており、そのまゝの状態。総合造りでは0.8m×2.0mと意外と高かった。まず、4号棟を使い、外壁と居の壁を少しずつ取り壊しながら段階的に耐震性を測定した。

実験では、建物の屋根裏に取り付けた起震器で震度2かゝる揺を起す。

一階部分に1個、その真上の屋根裏に4個設置した検出器が、この揺を伝える。また柱と梁（はり）の間にシヨックを吸収する油圧式ダンパーを取り付け、その効果も調べた。



た。今後、斜めに倒した柱宅の測定値をはじめ、柱別の揺れの特徴や、油圧式ダンパーがどれだけ効果的だったかなどを分析。十月に同震化工事の実例でも、専門的な知識がない一般市民にとって、どこまで費用をけて改修すべきかはきり分からず、いざが、戸惑いの一つになっているところがあるが、谷口教授によれば、昨東北地方で起きた地震の記録調査をしたところ、下り粘土を敷かず薄い瓦をききおとして屋根が軽くなった。四隅の壁に筋交いの足り、ある建物ではほとんど被書を受けていなかったという。しかし、前回紹介したた

9月5日の連続地震 津波警報への反応

和歌山県や三重県を中心に震度五の揺れがあった、九月五日の連続地震。二回目の地震では三重、和歌山、愛知の各県に津波警報が出されたが、沿岸住民の反応はさまざまだった。一九四四（昭和十九）年に東南海地震を体験している三重県沿岸部の人々の行動を再検証した。

三重県沿岸部の例再検証

自動放送で多くが避難

「東南海」経験の過信者も

に通帳や現金、健康保険証などが、手掛け袋にヒスケットや飲料、着替えなどを詰め込んだ。二回目の地震直後の六日午前零時十三分ごろ、最大二層の津波の恐れがあることと警戒するようになつたため、職員は誘致送を聞いて動き出し、主

と強調。「知っている型の波がすべてだ」と思うと大変なことになる」と警鐘を鳴らした。

お断り 紙面の都合で掲載日をずらしました。

拘 鵬 斐 律